



はしかみ

「豊かな人間性と創造性を持ち、心身ともに健康で、たくましく生きる児童を育成する」

岩手県への学習旅行

6年生は、9月12日、13日の2日間、学習旅行で岩手県盛岡市や平泉町を訪れ、漁業を中心とした気仙沼の基幹産業とは違った内陸地方の産業や食文化について学んできました。子供たちは、小岩井農場の大規模農業や畜産業を見学して自分たちの食を支えている農家の苦労や担い手不足を補うための機械化などを学びました。また、わんこそばなどの盛岡三大麺を食し、りんご狩りを通して内陸地方の食文化を体験しました。そして、東北地方で初の世界文化遺産となった中尊寺を見学し、奥州藤原氏が栄華を誇った時代に思いを馳せながら「浄土思想に関連する文化的景観」の魅力と堪能しました。今後、学習旅行での学びを生かし、気仙沼の魅力と比較しながら、ふるさと気仙沼の未来像を思い描き、発信していく予定です。



小岩井農場見学

6年生は、9月12日、13日の2日間、学習旅行で岩手県盛岡市や平泉町を訪れ、漁業を中心とした気仙沼の基幹産業とは違った内陸地方の産業や食文化について学んできました。子供たちは、小岩井農場の大規模農業や畜産業を見学して自分たちの食を支えている農家の苦労や担い手不足を補うための機械化などを学びました。また、わんこそばなどの盛岡三大麺を食し、りんご狩りを通して内陸地方の食文化を体験しました。そして、東北地方で初の世界文化遺産となった中尊寺を見学し、奥州藤原氏が栄華を誇った時代に思いを馳せながら「浄土思想に関連する文化的景観」の魅力と堪能しました。今後、学習旅行での学びを生かし、気仙沼の魅力と比較しながら、ふるさと気仙沼の未来像を思い描き、発信していく予定です。



わんこそば体験

アクサ・ユネスコ防災教室



防災カルタ体験

9月20日には、地域の方々や北は北海道から、南は沖縄県の先生方や防災教育に携わっている方々を招き、「アクサ・ユネスコ防災教室」を実施しました。2校時には、階上中学校の生徒たちが、1年生から4年生に防災教育の授業を実施しました。防災紙芝居や代々引き継がれてきた防災カルタや防災クイズによる災害時の対応について自分たちの体験を交えながら小学生の子供たちに語りかけました。6年生は、午後階上中学校3年生の防災の取組についての発表会に参加してきました。語り部活動を通して成長したことを英語で発表した先輩の経験談から、今後自分たちが次の世代へと引き継いでいくであろう実践を学ぶことができました。

4年生は、各地区の自治会長さんや自治会の方々と実際に各地区を散策して、自分たちの目と足で確かめた地域の危険箇所から、防災に向けて何が課題か考えて調べてまとめた防災マップについて発表しました。防災マップに書き込んだ危険箇所や避難場所、フリップやICT機器による画像で視覚的に分かりやすく発表しました。参加者からは「お年寄りにも分かりやすい避難方法に目を付けたのはすばらしい」「子供目線から危険回避のために何が必要かよくまとめられていて感心した」との感想をいただくとともに、「外国人の方々にも分かる防災マップも今後検討してみてください」とや「実際に2次避難場所、3次避難場所までのどれくらい時間がかかるのか付け加えると分かりやすい」などさらに今後の探究活動へのアドバイスもいただきました。4年生は、階上地区総合防災訓練にて、さらに改善を加えて地区民の方々に発表する予定です。



防災マップの発表

海洋教育発表に向けて～気仙沼向洋高校で学ぶ～



課題研究ミニ発表

5年生は、先月末には沖縄美ら海水族館館長さんとオンラインにて気仙沼と沖縄の海の水質や捕獲される魚の種類など環境による違いについて学びました。そして、9月26日には、気仙沼向洋高校で「情報海洋科海洋類型」の施設見学や実習等を体験してきました。操船シミュレーターやマグロの延縄漁業の説明では、シミュレーターを見ながら操船体験をすることができました。また、高校生の課題研究の発表を聞いて、どうして漁業に関わる道を選んだかや気仙沼の基幹産業を支える取組について学ぶとともに、水産業や船舶実習に携わる最先端の技術を学びながら海の環境と資源を守っていくと意欲を込めて発表していました。



ダイビング実習室にて

5年生は、先月末には沖縄美ら海水族館館長さんとオンラインにて気仙沼と沖縄の海の水質や捕獲される魚の種類など環境による違いについて学びました。そして、9月26日には、気仙沼向洋高校で「情報海洋科海洋類型」の施設見学や実習等を体験してきました。操船シミュレーターやマグロの延縄漁業の説明では、シミュレーターを見ながら操船体験をすることができました。また、高校生の課題研究の発表を聞いて、どうして漁業に関わる道を選んだかや気仙沼の基幹産業を支える取組について学ぶとともに、水産業や船舶実習に携わる最先端の技術を学びながら海の環境と資源を守っていくと意欲を込めて発表していました。